

「患者さんは一人として同じ人はいない」と日々精進する求道者


仙人のような神秘的な治療家というよりも、真理を追究する研究者。谷先生の静かでユーモラスな語り口調は、どちらかというところちらだった。しかしその内側には、すべての患者さんが満足していく施術、その理想に向かって熱く走る「求道者」の炎が燃えていた。

一つの施術にこだわらず、
選択肢を広くもっていたい

ほど揺られると、草津駅に到着する。電車を降りて線路をわたると、すぐに「治療院ナチュラルハンド」が見えた。

JR西広島駅から、名物のチンチン電車（広島電鉄宮島線）に乗って厳島神社方面へ。八分

院長の谷裕一郎先生は、とにかく勉強家である。薬剤師の資格をもち、さらに西洋のカイロ



「万能の治療法はないのですから、
一つの治療法にこだわらず、
あらゆる治療法を準備しておくのが
患者さんのためだと思っています」

谷裕一郎 (たに・ゆういちろう)

1967年生まれ。鳥取大学農学部卒業後、予備校講師を経て北海道医療大学薬学部を卒業。同時に整体や気功を学ぶ。卒業後、東京にて日本カイロプラクティックカレッジで学びつつ、ガン専門クリニックでの研修や上海中医薬大学、オステオパシー、均整術などのセミナー、勉強会に参加。これらさまざまな方法の長所を生かす方法を感じて、2005年自身の理想と理論を形にするため広島に開業。日夜研鑽に励んでいる。



「治療家として可能な限り治療法を準備しておきたい」と語る谷先生

プラクティックやオステオパシー、東洋医学の気功や整体などを学んだが、それにこだわることなく自分のアンテナに引っかかった治療法は「時間とお金がかす限り」（谷先生）貪欲にとり入れている。だから、治療方法の選択肢は驚くほど多い。

たとえば、同じ腰痛でも、患者さんによっては同じ方法で必ず治るということはない。あるいは十の痛みが三になっただけ、あとの三がとれない場合もある。そのようなときに、患者さ

んに合ったほかの治療法を探り、組み合わせるいく。これが治療院ナチュラルハンドの最大の特徴といえるだろう。

主な施術法を挙げると、経絡整体、気功整体、カイロプラクティック、オステオパシー、漢方薬、温熱療法、波動療法などである。谷先生は、患者さんの体（症状や疾患）と会話しながら、どのような施術法を選択すれば良いのかを考え、実践してゆく。

「もし万能の治療法というのがあれば、それでいいと思います。でも、実際にはそんなものはないわけです。だから一つの治療法にこだわっていたら、どうしても治せないものが出てくるのです。しかし治療法によっては対応できるものもあるはずですから、施術者としては可能な限りいろいろな治療法を準備しておくのが患者さんのためだと思っています」

また谷先生は、治療院とは別に本格的なヒーリングやプロの治療家を養成するためのレイキ（日本で始まった気功の一種）や気功のセミナーを行っている。

「レイキ」とは、体に手のひらを当てることによって心身の健康を実現していくヒーリング法である。

「おなかが痛いとき歯が痛いとき、無意識に手を当てますね。苦痛や不安に見舞われている病床の人も、ずっと手を握っていてあげると安心して眠ります。これらは偶然はありません。人は生まれながら『癒しの手』を持っているのです。いわゆる気功の一種と考えることもできますが、特別なことでも不思議なことでもなく、誰もがもっている力です。気功も同様です。それらを体験してもらい、実践できるように指導をしています」

患者さんの体にたずねる 「経絡気功診」

谷先生の治療のやり方を簡単に紹介しておこう。

まず、患者さんに問診を行い、さまざまな治療法から適切と思われる治療法の絞り込みを行う。この段階で、場合によっては病院での検査を勧めることもある。

その後、必要に応じて患者さんの疾患や症状に対して西洋医学的・東洋医学的な検査を行う。その際に、谷先生は「診断」のために気功を用いる。ここがユニークである。

「僕の気功の捉え方は、治療よりもむしろ診断です。気功の手法によって治療ポイントを探し、病気のレベルを把握します。以前は経絡理論や触診などで問題点を探していましたが、痛みがとれない場合もありました。経絡理論にはさま



膝の痛みを訴える記者の体を丁寧に診断

さまざまなものがあり、その東洋医学的な診断によって使うツボは決まっていますが、実際にはその理論に当てはまらない疾患や症状もあります。そこで、複数の経絡理論を用いながらおおよその経絡を絞り込み、そこから先は理論で決まったツボにとらわれることなく、患者さんの体と対話しながら本当の問題点を探すようにして

みました。

すると、ときには予想外の部位のツボに過剰なエネルギーが溜まっていたりすることがわかったのです。そのエネルギーを解放することによって、それまでの経絡理論による治療ではとれなかった痛みもとれるようになりました。これが経絡気功診です」

過剰エネルギーの解放という方法は、オステオパシーの理論と臨床、さらに東洋医学理論と気功診の感覚から得られた結論だという。

「オステオパシーは、痛みのエネルギーは筋膜（筋肉を包んでいる膜）に蓄えられ、それを解放することで痛みはとれると考えます。一方、東洋医学では痛みの原因は『不通則痛』、つまり血液にしる気（エネルギー）にしる、流れが滞れば痛むと捉えます。



足元から背中へと。診断と治療は静かに進行していく

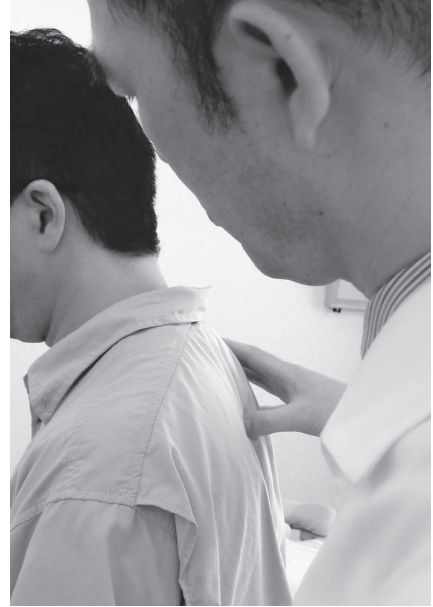
東洋医学では気の流れる道を『経絡』といい、その経絡上にある気の出入りする場所を『経穴』（ツボ）といいます。

気の滞っている場所（不通）から気を外に出しているところがツボですから、ここに鍼なり指なりで刺激を加えることによって、滞っている部分の気を解放させることができます。

そしてまた、ツボは筋膜を解放するスイッチでもあるので、ツボ刺激によって同時に筋膜に蓄積されたエネルギーも解放され、痛みが解放されるのです。

私は気功診によって、そのツボから出てくるエネルギーを感じ、解放しているというわけです

谷先生は、動作によって痛みが出てくる症状がある時は、実際に患者さんに動かしてもらいながら治療ポイントを探していく。特定の動きで痛みが出る場合、その瞬間に治療ポイント



治療ポイント(ツボ)から滞っている気を流していく

(ツボ)から気(エネルギー)が出ているからである。

痛みの原因は、 エネルギーの滞りにある

「痛み」という症状をとることは、基本的にはさほど難しいことではないと谷先生はいう。それも、治療したその場で痛みが引いていくことがほとんどだという。ただし、鎮痛は必ずしも

根本的な治癒ではないので、治療のあとで痛みが戻ることもある。

たとえば、谷先生はリウマチの患者さんを数多く診ておられるが、痛みやこわばりの治療とは別に、根本的な原因の改善を目指して漢方薬も処方している。また、薬剤師でもあるので、患者さんがどのような薬をどれくらいの期間飲んでいくかなどから、副作用の問題点などアドバイスもしている。

「そうですね、リウマチの場合でも、痛みやこわばりはほとんどその場でとれますが、やはり一週間くらいで少しずつ戻ってくるケースも多いですね。でも、治療を重ねるうちに徐々に戻らなくなってきます。

また、リウマチの病気の進行が止まっていて、手のこわばりだけがずっと残っているような場合には、痛みからずっと解放されてとても喜ば

れます。

患者さんにしかわからないことですが、こわばりというのは非常につらいことのように、それがとれるだけで生活がガラッと変わります。

それは心身ともに健康的な生活を送れるようになるということですから、とても意味のあることだと思います」

リウマチの痛みも、その痛んでいる部分とはかなり違う部分に「不通即痛」があることが多い。ところが、その場所も日によつて変わることもある。そういうことに対して、気功による診断は柔軟に対応できるのだという。

ほかの一般的な腰痛、ひざの痛み、頭痛や内臓の痛みなどについてもうかがってみた。

「腰痛は、だいたい一、二回の治療で良くなる場合が多いと思います。坐骨神経痛がある場合には、二回、三回になることもあります。

それから、私はヘルニアが腰痛の直接の原因

というのはほとんどないのではないかと思っています。ヘルニアというのは、物理的に神経が圧迫されているわけですから、もしそれが原因であれば手術でなければ治らないはずで。でもヘルニアと診断された患者さんも、手技で痛みがとれてしまうことが多いわけですからね。

たとえば痛みの部位の付近の骨のズレが直接痛みを発生させていない場合も多いのです。というのもその部分を単純に矯正しただけでは痛みが残ることがあるのです。その痛みは過剰なエネルギーの溜まりから起こっているわけで、それを解放しない限り痛みはとれません。

基本的には、よけいな仕事をしている筋肉（筋膜）の緊張をとつてあげることです。そうすると痛みがとれて、楽に生活しているうちに結果的に骨も良い場所に戻つていったりするんです。

よく『体のバランスが悪い』ということ、

『ナチュラルハンド』の施術メニュー	
経絡整体	気功と経絡を組み合わせた診断によって、病気や症状の原因となっている経絡や臓腑を見つけ出し、そこを古典鍼灸理論に基づいてピンポイントで治療する。ソフトなツボ刺激で、強い矯正はしない。治療効果は、その場で実感できる。
カイロプラクティック	カイロプラクティックは一般的に背骨を物理的な力によって強く矯正する手技だが、当院ではボキボキ鳴らすような治療は行っていない。アプライト・キネシオロジーという、経絡と筋肉の反射を使ったテクニックを使っている。
オステオパシー	背骨の歪みを修正し、体液や脳脊髄液の循環を良くして全身的な自然治癒力を上げる手技。カイロと異なるのは、関節の骨ではなく筋肉組織（特に筋膜）を調整する点である。関節ばかりではなく、内臓、頭蓋骨と仙骨などに直接アプローチするテクニックも使う。
経絡療法	故佐藤久三先生によって開発された治療法をベースとしたもの。古典的な経絡の理論にのっとり、ツボに特殊なシールを貼ることにより治療を行う。
構造医学	NASAの研究に携わっていた吉田勸持先生によって創始された。重力という視点からヒトの歩行生理を解析し、治療体系として発展させた新しい医学体系。ほとんどの整体は硬くなっている関節を問題にするが、ここでは関節のゆるみを問題と考え、調整する点が決定的に違う。
波動療法	簡単に言えば、機械による外気功治療。患者さんの「気」を増幅する「波動転写機」を用いて、滞った「気」の流れを良くしていく。波動は体の歪みを矯正し、体に生命エネルギーを満たしていく。

ものすごく微妙なずれでも『修正してほしい』という患者さんが来ますけど、あまりお勧めしないんです。それによる痛みや症状がなければ、多少はバランスがズレていてもいいわけです。

生活のなかで常に身体を左右均等に使うことは無理ですし、その方のもともと持っている癖などもあります。問題は、その人のズレや歪みがその人にとって許容範囲かどうかということです。ですから、もし許容範囲を越えている場合には、その人の自然治癒力が発揮できるレベルまで戻してあげればいいのだと思います」

膝の痛みについても、老化だからとあきらめる必要はないという。

「中高年になって膝が痛いという場合、特別に激しいスポーツによる障害でもない限り、膝関節の内部がすり減ってきたということはメジャリーな原因ではないと思います。」

膝の痛みも、何年も苦しんでいるという方が

見えますが、けっこう一回の治療でとれることが多いです。最初は膝周辺の経絡を中心に治療していきますが、それでとれなければオステオパシー、それでもとれないようなメソッドからはずれた症例は気で診ます。時折欠盆穴や雲門穴など遠く離れたツボで劇的に改善することもあります。私、まだまだ症例は多くありませんけれど、膝の痛みでとれなかったことはないと思います。さほど難しくないと思います。

偏頭痛や生理痛も、原因が必ず全身のどこかに現れています。その溜まったエネルギーをとってあげれば、すぐによくなります。それから生活習慣のなかにも原因がありますから、それもとって除いていけば再発しなくなります」

リュウマチの痛み・こわばりも、 治療の組合せで改善

実際に、患者さんの例を挙げていただいた。

まずはリウマチの患者さんから。

ほぼ三カ月でリウマチの痛みがなくなった

「Wさん、昭和二十六年生まれの女性です。『リウマチで手首から下の両手に力が入らない』ということで、平成一八年一月二六日に来院されました。雑巾も絞れないような状態で、かなり辛かったようです。また、夜中に起きると足首と膝が痛い、というようなこともおっしゃっていました。カルテを見ると、五十肩もあつたようですね。」

ただ、この方はリウマチの発症がまだ一年半前で、さほど進んでいませんでした。初診のあと二月九日に来て、それでほしいOKだったのですが、最後に三月になってから一度来て終わりました。実際にやったのは、手首に関して手の陽経の経絡、膝に関しては大腿内側の陽経の経絡。この方はだいたい陽経で治療してい

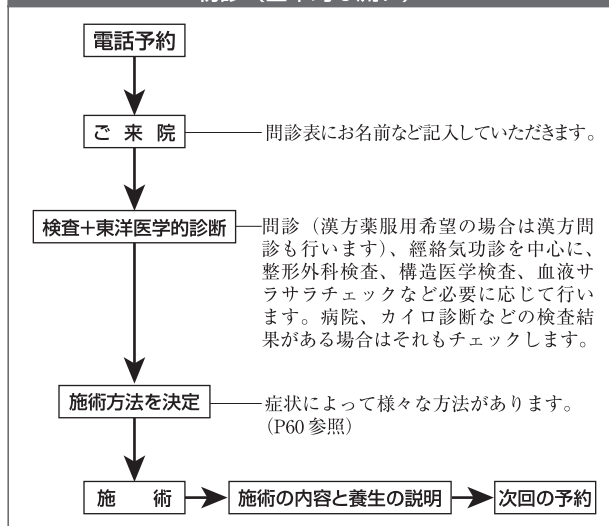
ます。最後は首までいきました」

陽経というのは、動物のようによつん這いになった時に太陽の光に当たる側の経絡（ツボのつながり）のことで、光が当たらない側は陰経というのだそうだ。

難しい状態のリウマチを様々な療法を用いて改善

「次の方はEさん、昭和三十八年生まれ的女性です。やはりリウマチで、歩くと足の甲と足の裏が痛くなる。体重を乗せると骨と骨の間が痛い、というような表現をされました。この方はリウマチがかなり進んだ状態で、昨年（平成十七年）九月から今年の一月まで、週に一回ずつ通っておられました。この頃私はまだ現在ののような気功をやっていなかったのですが、この方は経絡の理論で治療をいろいろと考えながらやっていました。私自身リウマチの患者さんの経験

初診（基本的な流れ）



が浅く、未熟だったということもあつたと思います。ただ、治療したあとは確実に楽になるので続けていただけました。でも、それ以上は良くなりません。やはり、こわばりが戻ってしまう。それで、オステオパシーの治療を試みました。

オステオパシーというのは、動きの足りない部分を、筋肉を包んでいる膜（筋膜）で考えるんです。筋膜の緊張によって、動きが制限されているとみる。その緊張を解放する。その治療をやってみたら、その方にはとても良かったんです。ちょうど、経絡療法を続けた最後の段階でオステオパシーの治療を加えたのが良かったのだと思います」

そのあたりの判断は、やはり治療家の感性ということなのだろう。その人に合う治療法を選び、治療の段階でも適当なものに変えていく。そのためにも、数多くの治療法を準備しておく価値はあるのだと谷先生はいうのである。

腰痛・背中痛・体のたるさも改善

次に、腰痛の症例も挙げていただいた。

「Sさんは、昭和三十九年生まれの女性です。腰痛と背中痛があつて、朝起きられない。

なんだかわからないけど体がだるい、つらい。病院で診てもらっても、特にどこも悪くないといわれた。平成十七年七月七日に来院されました。こういう方は、今本当に多いです。

最初は『特に寝室の家電製品から出てくる電磁波に気をつけて、毎日植物に触れるようにしてください』というようなアドバイスをして、構造医学という体の歪みを物理的に矯正していく治療法をとりました。腰痛などの痛みは最初の二、三回でとれたのですが、八月二十六日に全身の倦怠感がひどいといって、また来院されたんです。それで、肝臓を浄化する漢方薬の一種、香草のパクチーから得られる成分の健康食品を飲んでもらいました。カルテには八月二十六日には、『だるさもとれた』と書いてあります。

はつきりとした原因が特定できない場合、なかなか病院では対処してくれず、本人は精神的にも相当にまいってしまっているんですね。精

神的ストレスが症状、特に痛みを悪化させているケースはとても多いです。痛みの原因は、私の目からはごく単純な問題であっても、ストレスが負荷となっているからよけいに治りにくくなっているんです。だから、良くなると本当に喜んでいただけます」

自分の技術よりも、患者さんを治すことが大事

最後になってしまったが、谷先生のバックグラウンドを紹介しておこう。

谷先生は、大学は農学部を卒業し、広島の前備校に講師として就職されたが、思い直して薬科大学を再受験し、そのあと東洋医学を勉強し、現在の道に入られている。

「当時の前備校は、異常なほどの激務でした。毎日十六時間も働いても、給料は安い。しかし栄養ドリンクはどんどん高額なものに手を出さ



漢方薬がところ狭しと並ぶ薬棚

なければやっていけなくなり、とうとう栄養剤の点滴まで受けるようになりました。よくわからない咳が二カ月も続きましたが、病院でみてもらっても異常なし。当然、治療の必要なしといわれる。そんななかで、たまたま通いはじめたクリニックで出してもらった漢方薬が自分の体に合って体調がとても良くなりました。それが、

一つのきっかけでした」

しかし、それだけで東洋医学の道を志したわけではなかった。人生の転機には、いつもちよつとした「きっかけ」があるものである。

「僕は三百人くらいの学生を受けもっていて、その一人ひとりの進路指導をしていました。ということ、せいぜい一人十五分です。たった

十五分間で、その子の人生を大きく左右する進路の相談をしなければならない。

体力的な面も合わせて、そういう部分に嫌気がさしていたこともあったのですが、一番大きなきっかけとなったのはある学生の『鍼灸の学校へ行きたい』という言葉でした。彼は文系でしたから、それは逃げなんです。でも頭ごなしに反対してもダメだと思って、鍼灸についての本や専門学校のパンフレットなどを集めて調べてみたんです。そうしたら『これこ

そオレの求める道じゃないか』って(笑)。講師の仕事は一生続けることはできないと思っていましたから、それで治療院を開業することに決めて、とりあえず仕事をしながら薬科大学に再入学するための受験勉強を始めたんです」

若き谷青年は、そのとき「十年後には鍼灸と漢方の東洋医学でトータルなケアのできる治療院を開業する」と心に決めたのである。だから、西洋医学の薬剤師の資格・基礎医学を勉強するために薬科大学に進もうとした。

「基本的な体のこと、生理学がわかってないと総合的な視点での治療なんてできないと思います。それに患者さんはみんな病院で良くならなかった方ばかりだから、西洋医薬についての知識も必要だと思っていました。漢方薬を処方するにも、基礎的な医学・薬学の知識は役立ちます」

二十七歳で思いも新たに薬科大学に入り直し、

それからは東洋医学をはじめ、ありとあらゆる治療法の勉強の日々となる。大学に通いながら気功やレイキ中国整体を学び、卒業後、カイロプラクティックを学び、ガン治療中心のクリニックでの研修、上海中医薬大学日本校を卒業し、さらにオステオパシー、均整術、さまざまなヒーリング技法と、精力的に学んでいった。そして、薬科大学は首席で卒業したのである。

「お金出して学んだだけインチキだったという失敗もありましたが、そうやっていろいろな治療法をみてきたからこそ、それぞれの治療法に向き・不向き、得意分野・不得意分野があるということがわかったんです。それらを組み合わせることで、単独の治療だけでは対応できない患者さんにも良くなってもらえる。そういうことがわかりました」

谷先生は、患者さんは一人として同じ人はいないと考えている。何か一つの治療法にこだわ

つていては、そのすべての症例に対応することはできない。大事なのは自分の今の技術にこだわることよりも患者さんを治すことなのだ、という考え方なのである。その信念が「開業後の現在も常に勉強」という姿勢を支えているのだ。「本当にやり尽くせない。でも、人を癒し、治していくという職業に就いているということとは、毎日のやり甲斐になっていますし、実際楽しいです。たまたま良くならない方が続くとストレスになりますけど、それを乗り越えるための勉強であって、だからファイトが湧いてくるんですよね（笑）」

患者さんを良くすることを第一に考え、そこに生き甲斐を感じ、日々精進する谷先生。患者側の立場からみても、大きな信頼が感じられた。

ACCESS DATA

治療院ナチュラルハンド

住所 ● 〒733-0861

広島市西区草津東3-6-8-101

TEL ● 082-507-3475

* 漢方薬局ハーブス TEL 082-507-3470

営業時間 ● 月～土 9:00～19:00

休日 日・祝日

<http://natural-hand.com/>

* ブログ「漢方だけにこだわらない漢方薬剤師の挑戦！日本一の治療家を目指して！」更新中

mail ● true@natural-hand.com